令和３年度　入学生用　〔　家　庭　科　〕シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
家庭	家庭基礎	2	必修科目	1年	
使用教科書	新家庭基礎　今を学び未来を描き暮らしをつくる			担当者	

学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習方法

授業中や教科書、実習や実験などを通し、生活についての正しい知識を身につけるよう心がける。学習するとき、家庭科の各分野(衣食住、消費、福祉、子ども、高齢者等)の学習内容、小中学校や他教科での学習内容と関連づけ、総合的に考えると理解が深まる。

今までの経験や体験、先生方やクラスメートの意見や考えを大切にし、授業の中での学習や実習の結果や反省を行かせるように、改善点や成功点を考える。無意識に行っている日常生活や家庭生活を取りまく社会の出来事に関心を持ち、その中から課題や疑問を見つけ出し、自分の考えをもとに解決する。

学習評価

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、
定期考査の点数、作品(実技)の点数、授業中の学習状況、実習の取組、授業で活用するプリントの提出などで総合的に評価します。
プリントは自分の考えを書き込んだりし、自分なりの工夫や整理をするように心がけ、自分の考えは自信を持って表現してください。

担当者から

製作実習の作品提出，授業で活用するプリントの提出を重視します。期限を守り，しっかり取り組みましょう。忘れ物をしたら申し出るようにしましょう。授業はHR教室のほかに，被服室・調理室（どちらも1階）でも行います。教室移動の場合はチャイムがなる前に移動し，遅刻した場合は必ず理由を伝えましょう。移動教室の場合は，ジャージなど着替えが伴うこともあります。調理実習での忘れ物には特に気をつけましょう。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元(題材)の評価基準	評価方法
4	これからの暮らしと人	第8章　生活設計	1. 目標をもって生きよう！		○	○					○	生涯を見通したライフスタイルについて考察し、自分の将来を展望できる。	2回の定期考査
4			生活設計とは		○	○					○	他者と関わりながら、自立した生活を主体的に創造する態度を身につける。	作品等の点数
4	Ⅰ人とかかわる	第1章　青年期と家族	1. これからの人生に向かって	○			○	○				自立や共生、職業などについて考察し、自分の課題を見いだすことができる。	実習等のレポート
5			2. 家族って何だろう				○		○	○		自分自身や家庭・家族と社会との関わりについて理解を深める。	プリントの記入内容
5		第2章　保育	1. 子どもの成長を見つめる	○		○					○	親の役割や子どもを取りまく環境、子育てに必要な知識や技術を理解する。	などを基に評価する。
5			2. 子どもの世話をしてみよう	○			○				○	子育てに必要な能力や子育ての意義などを考えることができる。	
6			3. 子どもを取り巻く環境		○			○			○	子どもの福祉、生命の尊さへの認識を深め、よりよい社会を構築する態度を身につける。	
6		第3章　高齢期	1. 高齢期ってどういう時期？	○	○						○	高齢期の特徴や現状と課題を理解し、共生社会を構築する態度を身につける。	
6			2. 高齢化する日本を生きる	○		○	○					高齢者の状況を考察し、将来の自分の在り方を考えることができる。	
7			3. 高齢者を支える			○		○		○		高齢者支援のため、家族や地域及び社会の果たす役割を考え、実践する力を身につける。	
7	Ⅱ暮らしをつくる	第7章　消費生活・環境	1. 何をどうやって買う？		○				○	○		将来、自立した消費者・生活者となれるよう、消費生活の学習内容を理解する。	
8			2. かしこい消費者になろう		○				○		○	自分のライフスタイルに合わせた、消費生活に関する適切な選択や判断ができる。	
8			3. 暮らしと経済のかかわり	○		○	○						
9		第6章　住生活	1. 私たちが暮らす場所	○			○			○		住居の機能、住空間などを理解し、ライフスタイルにあった住居を選択する力を身につける。	
9			2. 安心・安全な暮らし	○		○			○			ライフスタイルにあった住まいの条件、安全・衛生面、防災など、住居生活について考える。	
9			3. つながって暮らす		○			○			○	自分や家庭、地域社会との関わりを大切にした住生活を実践できる態度を身につける。	
9			4. これからの住まいを考える	○			○	○					
10		第5章　衣生活	1. なぜ服を着るの？		○	○		○				衣生活に関する学習内容を理解し、被服管理に必要な技能を身につける。	
10			2. 私たちが着ているもの	○		○	○					充実した衣生活を送るため、社会や環境と関わりを考え、適切な判断ができる。	
10			3. 衣服の管理を学ぼう						○	○	○	衣生活について、主体的に創造しようとする実践的な態度を身につける。	
10			4. これからの衣生活	○				○	○				
11		第4章　食生活	1. 食生活を見つめよう			○	○				○	調理実習などを通し、栄養や食品、衛生など食生活に必要な知識と技能を身につける。	
11			2. 私たちが食べているもの	○	○	○						食生活に関する問題や課題を見つけ、改善しようとすることができる。	
11			3. 安全・安心な食生活を選ぼう				○		○		○	社会との関わりを踏まえ、食生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につける。	
12			4. 献立と調理		○				○	○		他者と協働しながら実習を安全に行い、目標を達成できる力を身につける。	
12			5. 調理実習　洋食の献立					○	○	○			
1			5. 調理実習　和食の献立					○	○	○			
2			5. 調理実習　中華の献立					○	○	○			
3	これからの暮らしと人	第7章　消費生活・環境	4. 環境について考えよう					○		○	○	持続可能な社会を目指して、主体的によりよい消費生活を創造する力を身につける。	